

22 Oct 2024

日本取引所グループ(JPX)および投資家への公開書簡

株式会社JERAのガバナンスに関する懸念: 地域社会とのステークホルダーエンゲージメントの軽視

日本取引所グループ(JPX)および投資家の皆さまへ

国内最大の発電事業者である株式会社JERA(以下、JERA)が、新規株式公開(IPO)を視野に入れていると考えられる中、同社の現在の事業運営やガバナンス慣行に関するリスクを評価することは極めて重要です。JERAは、企業として果たすべき社会的責任の一環として、ステークホルダーとの「積極的なコミュニケーション」やエンゲージメントを約束すると表明しています。にもかかわらず、地域社会のステークホルダーとのエンゲージメントを怠っている状況は、同社の声明と行動の間に憂慮すべき隔たりがあることを示唆しています。この一貫性のない姿勢は、JPXおよび投資家に対し、レピュテーションリスクにさらされる可能性を含む難題を突きつけていると言えるかもしれません。

JPXと投資家にとっての危険信号は、ガバナンスやステークホルダーとの関係に対するJERAの姿勢にあります。JERAがJPXの上場会社になった場合に順守すべき日本のコーポレートガバナンス・コードは、長期にわたる企業価値の醸成に向けてステークホルダーとの実効的なエンゲージメントを行い、「ステークホルダーの権利と立場を尊重する」ことを徹底する重要性を強調しています。JERAはこの原則を無視しているように見えます。JERAはこの1年間にわたり、少なくとも10の市民社会組織や地域社会のステークホルダーからの意見交換の要請を拒否してきました。これには、以下の市民社会グループや地域住民からの要請も含まれ、いずれもJERAが支援する事業に懸念の声を上げようとするものです。

- ティウイ諸島の伝統的所有者(オーストラリアのティウイ諸島の先住民族コミュニティ)。オーストラリアでのバロッサガス田開発事業(JERAはガス田権益の12.5%を取得)に対して、環境、海洋生物、文化への潜在的な影響に関する懸念を表明し、反対してきました。
- バングラデシュを拠点とする対外債務に関するバングラデシュ作業部会(BWGED)、ドリトリ・ロクヘイ・アムラ(DHORA)、沿岸生計・環境行動ネットワーク(CLEAN)。マタバリサミットLNG発電所(JERAはサミット・パワー社の発行済み株式の22%を保有)およびJERAが入札者として名を連ねるマタバリ陸上LNGターミナル事業によって影響を受けるであろう地域住民と共に活動しています。新たなインフラが建設されるのは、気候変動の影響を最も受けやすい国の一つとして認識されているバングラデシュにおいて、化石燃料拡張計画が最も大規模に進められている地域です。
- フリーポートLNG事業(JERAは権益の25.7%を取得)に懸念を抱いている米国テキサス州を拠点とするテキサス環境キャンペーン(TCE)、ベター・ブラゾリア、環境正義のためのフリーポート・ハイブン・プロジェクトの地域住民および市民社会組織。2023年6月に輸出ターミナルで起きた爆発事故で、火の玉が450フィート(約140メートル)上空まで立ち上り、約12万立方フィートのLNG(約3400キロリットル)が放出されました。
- 武豊町の環境問題を考える会(愛知県武豊町)。武豊町には、石炭・木質バイオマスを燃料とする武豊火力発電所(JERAが100%保有)があり、2024年1月の爆発事故を含む事

故が多発し、住民の間に安全性への懸念が広がっています。地域住民はJERAの対策に不安を抱き、発電所の再開に反対しています。¹

- フィリピンの市民社会組織。大手電力会社アボイティス・パワー(JERAは発行済み株式の27%を保有)および同社の化石燃料ガス(LNG)拡張事業計画に懸念を表明しています。

JERAがこれらのステークホルダーとのエンゲージメントを拒否していることは、一般的にステークホルダーとの対話や説明責任を軽視する傾向があることを示唆しており、投資家にとって考慮すべき重要な要素となり得ます。影響を受ける地域住民とのエンゲージメントを怠ることは、世界の投資家が求める持続可能で責任あるコーポレートガバナンスの原則に反します。地域社会や様々なステークホルダーの懸念を無視し続けるのであれば、JERAにはレピュテーションリスクだけでなく、財務リスクが生じる可能性もあります。

グッド・ガバナンスの原則に反する:日本の「コーポレートガバナンス・コード」は、持続的な成長と中長期的な価値の創出は、地域社会をはじめとする様々なステークホルダーによる貢献の結果に左右されると強調しています。特に「地域社会は会社の存続・活動の基盤をなす」と明確に示しています。従って、取締役会および経営陣は、ステークホルダーの権利を尊重し、健全な事業活動倫理を実現する文化を醸成しなければなりません。JPXおよび投資家の皆さまは、ステークホルダーとのエンゲージメントを拒否し続けるJERAの姿勢を憂慮すべきです。

レピュテーションリスク:JERAが地域社会のステークホルダーとのエンゲージメントを行っていないことは、重大なレピュテーションリスクをもたらす、それは投資家にとって当然、憂慮すべき事態です。JERAの化石燃料事業によって経済、環境、社会面で影響を受けている、あるいは受けることになる地域社会とのエンゲージメントを怠ることは、住民による反発・反対、影響を受ける地域住民による訴訟、メディアによる否定的な報道につながる可能性があります。そのことはすでに、オーストラリアのバロッサガス田開発事業に対する市民による反対の動きを見れば明らかです。これはひいては、同社の株主価値に影響を与える恐れもあります。

JERAは、エンゲージメントを行わない理由として、個別の事業に関わる機密保持の問題を主張するかもしれませんが、同社は、地域住民が経済、人権、社会・環境に関する正当な懸念を表明するために利用できる他の手段を提供することもしてきませんでした。JERAは人権デュー・ディリジェンスの仕組みと通報システムの構築を約束しているにもかかわらず、2024年9月時点で、市民社会グループや地域住民がエンゲージメントを通じて同社に働きかけたり、苦情を申し立てたりするための目に見える仕組みは存在しません。世界規模で事業を展開する日本最大のエネルギー企業として、JERAは地域社会との透明性のある対話の手段を構築すべきです。機密保持に懸念があるとしても、それでも、地域社会からのフィードバックに耳を傾け、社内に対応することはできるはずで

地域社会は、JERAの事業への懸念に対する誠実な対応、そしてJERAとの本物のエンゲージメントや対話を求めています。単に書面で方針を繰り返し述べたり、中身の無い美辞麗句を並べたりするだけの対応は、本物のエンゲージメントとは言えません。

JERAのIPOについて熟考している投資家の皆さまにはぜひ、同社が化石燃料事業に関して、先に挙げた地域住民やコミュニティ、市民社会グループとの真のエンゲージメントを怠ってきたという事実を認識していただきたいと存じます。

¹ JERAは5月に住民説明会を開催し、爆発に関する質問に回答しましたが、安全性の保証を明確に得られず地域住民には不満が残りました。9月には「火災事故に対する再発防止策」を発表しましたが、住民への説明会開催の予定は示されませんでした。

私たちはJPXおよび投資家の皆さまに対して、予想されるIPOに先立ちデュー・ディリジェンスを実施し、ここで取り上げた諸問題について、直ちにJERAとのエンゲージメントを行っていただくよう要請いたします。

詳細につきましては、下記メールアドレスまでお問い合わせください。

meg.fukuzawa@marketforces.org.au

敬具

テレーズ・ウォケイ・バーク (**Therese Wokay Bourke**)
ティウイ諸島伝統的所有者 長老・リーダー

ピラウエイニング (**Pirrawayingi**)
ティウイ諸島伝統的所有者 長老・リーダー

トレバー・キャロル (**Trevor Carroll**)
Texas Campaign for the Environment

マニング・ローラーソン (**Manning Rollerson**)
Freeport Haven Project for Environmental Justice

メラニー・オルダム (**Melanie Oldham**)
Better Brazoria

大久保崇
武豊町の環境問題を考える会

鈴木陸郎
横須賀火力発電所建設を考える会

スザンヌ・ウォン (**Susanne Wong**)
Oil Change International

カニズ・ラベヤ (**Kaniz Rabeya**)
Coastal Livelihood and Environmental Action Network (CLEAN)

リディ・ナクピル (**Lidy Nacpil**)
Asian Peoples Movement on Debt and Development (APMDD)

シャリフ・ジャミル (**Sharif Jamil**)
Dhoritri Rokhhay Amra (DHORA)

グレン・クラトフスキー (**Glen Klatovsky**)
Climate Action Network Australia

田辺有輝
「環境・持続社会」研究センター (JACSES)

鈴木康子
気候ネットワーク

満田夏花
FoE Japan

ウィル・ヴァン・デ・ポル (**Will van de Pol**)
Market Forces